

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●藤岡佑介騎手がJRA通算1万回騎乗を達成

11月7日(土)の5回阪神1日・第5レースでエイシンディーデーに騎乗した藤岡佑介騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上43人目、現役では29人目となるJRA通算1万回騎乗を達成しました。

●斉藤崇史調教師がJRA通算100勝を達成

11月8日(日)の5回阪神2日・第3レースではディクテイターが1着となり、同馬を管理する斉藤崇史調教師(栗東)は、現役155人目となるJRA通算100勝(延べ1112頭目)を達成しました。

●2歳・芝1400mの中央競馬レコードタイム更新

11月7日(土)の5回阪神1日・第11レースとして行われたKBS京都賞ファンタジーS(GⅢ)では、メイケイエール(牝/栗東・武英智厩舎)が1分20秒1のタイムで勝利しました。これは2006年の同レースでアストンマーチャンが記録した1分20秒3を更新する、2歳・芝1400mの中央競馬レコードタイムとなります。

●重賞ウィナー4頭の競走馬登録抹消

2019年マーメイドS(GⅢ)の勝ち馬サラス(牝5歳/栗東・西村真幸厩舎/JRA通算17戦4勝)、2016年函館2歳S(GⅢ)の勝ち馬レヴァンテライオン(騾6歳/美浦・加藤士津八厩舎/JRA通算30戦3勝)、2020年小倉サマージャンプ(J・GⅢ)の勝ち馬スプリングボックス(牡6歳/栗東・寺島良厩舎/JRA通算25戦3勝)は、11月4日(水)までに競走馬登録を抹消されました。サラスは繁殖馬となる予定ですが繋養先は未定。スプリングボックスは京都府宇治田原町の宇治田原優駿ステーブルで乗馬となり、レヴァンテライオンは地方競馬に移籍する予定です。また2017年東京新聞杯(GⅢ)の勝ち馬ブラックスピネル(騾7歳/栗東・音無秀孝厩舎/JRA通算34戦5勝)は、10月31日(土)、障害未勝利戦の競走中に右大腿骨滑車粉砕骨折を発症、予後不良となり、同日付で競走馬登録を抹消されました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●JBC2歳優駿(門別)は地元北海道のラッキードリーム

北海道2歳優駿から改称したJBC2歳優駿(JpnⅢ、11月3日、門別、1800m)は、6番人気のラッキードリーム(石川俊騎手、牡、父シニスターミニスター)が中団からゴール前100mで抜け出し、同じ北海道所属のトランセンデンスをクビ差抑えました。レイニーデイが3着に入りましたが、2番人気のルーチェドーロは10着、プライムデイは12着、1番人気に推されたタイセイアゲインは13着、逃げたカズカボレイはしんがりの14着と、他のJRA勢は不振でした。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンドの結果

2020ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド笠松は11月4日に実施され、第1戦は団野大成騎手(栗東)、第2戦は岩田望来騎手(栗東)が優勝。また、トライアルラウンド大井は11月5日に行われ、第1戦は仲原大生騎手(大井)、第2戦は福原杏騎手(浦和)が制しました。これでトライアルラウンドは全て終了し、JRA所属では原優介騎手、菅原明良騎手、秋山稔樹騎手、小林脩斗騎手(以上美浦)、岩田望来騎手、団野大成騎手、川又賢治騎手、亀田温心騎手(以上栗東)がファイナルラウンド進出を決めています。

●鎌倉記念(川崎)は北海道のリーチ【各地の主要2歳重賞】

鎌倉記念(10月14日、川崎、1500m)は、中団から追いつけた3番人気の北海道からの遠征馬リーチ(牡、父グランプリボス)が、ゴール前の接戦をクビ差で制し、イノセントCに続く重賞2連勝を達成しました。兵庫若駒賞(10月15日、園田、1400m)は、逃げた2番人気のツムタイザン(牡、父シンボリクリスエス)が後続を8馬身引き離して圧勝、デビュー以来の連勝を3に伸ばしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ブリーダーズC~オーセンティックがクラシックを制覇

計13ものG1を2日間でまとめて行うブリーダーズC開催が11月6日、7日に米国ケンタッキー州のキーンランド競馬場で行われました。この開催のメインとなるG1ブリーダーズCクラシック(7日、3歳上、ダート2000m)を制したのはオーセンティック(牡3歳、父イントゥミスターフ)。J.ヴェラスケス騎手を背に先手を奪うと、そのまま逃げ切りました。2馬身 $\frac{1}{4}$ 差の2着にはG1を3連勝して臨んだインプロバブルが入り、B.パファート厩舎のワンツーフイニッシュとなりました。オーセンティックは今年9月のG1ケンタッキダービー(ダート2000m)に優勝。前走10月のG1ブリークネスSは牝馬スイススカイダイバーの2着でした。また、この1レース前に行われた準メインのG1ブリーダーズCターフ(3歳上、芝2400m)はアイルランドから遠征したタルナワ(牝4歳、父シャーマーダル、D.ウェルド厩舎)が後方から鮮やかに差し切って、最後は同じアイルランドからの遠征馬で、G1・7勝のマジカルに1馬身差をつけて優勝。これで9月のヴェルメイユ賞(芝2400m)、10月のオペラ賞(芝2000m)に続くG1・3連勝としました。なお、栗東の森秀行厩舎の所属馬で、G1ブリーダーズCスプリント(7日、3歳上、ダート1200m)に出走したジャスパープリンス(牡5歳、父ヴァイオレンス)は果敢に逃げるも最下位14着でした。